巻頭言

薬剤師のプロフェッショナリズムと職能について考える

日本病院薬剤師会理事
神戸大学医学部附属病院教授・薬剤部長
矢野　育子　Ikuko YANO

「薬学教育モデル・コア・カリキュラム令和４年度改訂版」が発出され，令和６年度の入学生から新しい教育が実施されます。改訂作業に少しかかわらせていただいた経験から，私の考えも含めて改訂のポイントについてご紹介させていただきたいと思います。

１つめのポイントは，医学・歯学教育のモデル・コア・カリキュラムとの同時改訂ということです。医療人として求められる基本的な資質・能力は共通で，１）プロフェッショナリズム，２）総合的に患者・生活者をみる姿勢，３）生涯にわたって共に学ぶ姿勢，４）科学的探究，５）専門知識に基づいた問題解決能力，６）情報・科学技術を活かす能力，７）薬物治療の実践的能力（これのみ医学・歯学では，患者ケアのための診療技能となっています），８）コミュニケーション能力，９）多職種連携能力，10）社会における医療の役割の理解，です。ご留意いただきたいのは，これらは生涯にわたっての目標であって六年制薬学部の卒業時点の到達目標ではないという点です。すなわち，これらの目標は私たち既卒の薬剤師にとっても目標とすべきものになります。

「プロフェッショナリズム」とは何でしょうか？なかなか言葉で説明することは難しく，これまでも多くの解釈がなされているそうです。私自身は，医師臨床研修の到達目標にある記載が最も腑に落ちました。それは，プロフェッショナリズム＝医師の基本的価値観という考え方で，「社会的使命と公衆衛生への寄与」「利他的な態度」「人間性の尊重」「自らを高める姿勢」の４つから構成されています。医療人として共通の基本的価値観であるプロフェッショナリズムに薬剤師としての「専門性」が加わると，薬剤師の職能ということになると思います。また，プロフェッショナリズムを語る際に，省察（せいさつ）という言葉もよく出てきます。私も今勉強しているところですが，簡単に言えば「振り返り」ということかと思います。薬学生の実務実習日誌でも振り返りとフィードバックが大事ということですね。

改訂のもう１つのポイントとして，実務実習にかかわる「F 薬学臨床」が「F 臨床薬学」に変更されたという点を挙げたいと思います。単に単語をひっくり返しただけではなく，その意味合いとしては，「実務ができることを目指した実務研修ではなく，国民のために薬剤師として何を行うのか，どのような課題を発見・解決して社会貢献につなげるか」を重視した教育を行うということです。「D 医療薬学」がありますので，臨床現場の薬剤師からすれば少し違和感をもつかもしれませんが，「D 医療薬学」は薬理学，薬物治療学，薬剤学等の医療系の学問領域からなり，「F 臨床薬学」はこれらの基盤となる知識を統合しながら，個々の患者に合わせた薬物療法の実践につなげるということです。

改訂コア・カリキュラムに対応した実習ガイドラインが間もなく示されると思います。私たち現役薬剤師も生涯にわたる目標を意識しながら，さらに高みを目指して日々の業務と教育研究に邁進したいと思います。